



公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会

広報北専各連

札幌支部・函館支部・小樽支部・空知支部・旭川支部・北見支部・道東支部・十勝支部・胆振 日高支部

■発行人/吉田 松雄 ■編集人/笠島 史生 ■住所/060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目 札幌ガーデンパレス内 ■TEL/011-242-1955 ■発行日/平成29年3月30日



北専各連は創立70周年を迎えました。



HSU 70th
Anniversary

vol.
38

目 次

●ごあいさつ	1
公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会 北海道総務部法務・法人局	理事長 吉田 松雄 学事課長 佐藤 則子
●創立70周年記念式典・祝賀会	2
●第59回北海道私立専修学校各種学校教育研修大会	3
●平成29年度事業計画	6
●平成28年度事業報告	7
2016(第45回)専門学校進学相談会 キャリア教育プログラム 次世代人材職業体験推進事業(道補助事業) 教員能力認定研修会 学校評価に関する研修会 文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	
●要請活動等	10
●受章者の紹介	10
●支部だより (札幌支部、函館支部、空知支部、旭川支部、北見支部、道東支部、胆振日高支部)	11
●会員校の動き	13
●2017(第46回)専門学校進学相談会開催日程	14

ごあいさつ



公益社団法人
北海道私立専修学校各種学校連合会

理事長
吉田 松雄

平成 29 年度を迎えるに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。
会員校の皆様におかれましては、卒業式、入学式と節目の行事が続くなか、慌しいなかにも身の引き締まる思いでお過ごしのことと思います。

昨年8月には統計開始以降最多となる3個の台風が北海道に上陸するなどして、道内各地に大きな被害をもたらしました。その復旧も長期化するなか、JRの廃止路線が提示され、関係の地域が広範囲に及ぶことから、存続か廃止かが全道的な議論となっております。

北海道がわが国の食料供給基地として確固たる位置を占める一方で、人口の減少や札幌への集中などにより、地域の、また、北海道全体のあり様が問われようとしています。

こうした中であって専修学校、各種学校にとりましては18歳人口が減少する2018年問題が間近に迫ってきております。ひときわ大きな影響を受ける北海道の専修学校・各種学校にとりましては、重い課題として受け止めつつ前に進んでいかなければなりません。

道内の高校生や中学生が将来、職業人として地元に着し、また就職後の早期離職を防止するためには、職業に対する十分な理解と適切な職業選択が重要であり、このため私どもは、高校生に対しては職業説明、模擬授業、進学相談会といったメニューを総合的にご提供するキャリア教育プログラムを、また中学生に向けては、日ごろ機会の少ない職業体験をご提供する事業を展開し、早い時期における職業観・勤労観の醸成に努めております。

また、生徒を受け入れる専門学校におきましても文部科学大臣認定の職業実践専門課程を取り入れたり、学校評価の実施などにより、教育の質を高めるとともに情報公開を積極的に進めているところであり、昨年5月に中央教育審議会が文部科学大臣に答申した「実践的な職業教育を行う新しい教育機関としての専門職業大学(仮称)の制度化」につきましても、今後の展開に大いに期待と注目をしているところであります。

これらの取組みを通じて教育の質の向上に努め、若者一人ひとりが職業に対しての理解を深めるとともに、適切な職業選択により、将来、社会の一員として活躍できる人材の育成に引き続き努めてまいります。

昨年、当連合会は創立70周年を迎えました。まだ終戦の混乱の残る昭和22年に札幌洋裁学校協会として発足し、先人のご努力と関係の皆様のご尽力により今日があることを胸に刻み、引き続き皆様とともに切磋琢磨しながら、本道における教育の充実に尽力してまいりたいと存じます。

平成29年度が皆様にとって実り多き年でありますことをご祈念申し上げます。



北海道総務部法務・法人局

学事課長
佐藤 則子

皆様には、日頃から私立専修学校、各種学校教育の発展にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、道政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本道は、昨年8月から9月の記録的豪雨により、各地で未曾有の被害が発生し、現在も、農業などの産業に影響が残っているほか、水産業も不漁に見舞われるなど、本道を支える産業にとって厳しい状況が続いています。

また、世界に目を向けますと、米国が環太平洋連携協定からの離脱を表明し、国際社会においても、今後、道内景気を左右する大きな変化が予想されます。

一方で、雇用環境は、3年後に開催される東京オリンピックに関連した需要が道内にも波及し、建設業などを中心に人手不足が深刻化しており、さらに、科学技術が高度化し社会経済がグローバル化する昨今、少子高齢化が急激に進展している本道においては、持続的な成長を継続するため、高度な専門性が要求される分野において、労働生産性を向上させることが喫緊の課題となっております。

こうした中、私立専修学校・各種学校は、実践的な職業教育の質の向上・確保に積極的に取組まれ、社会のニーズに対応した、実践的・専門的な職業教育を行い、多様な分野に優れた人材を輩出するなど、人づくりにおいて重要な役割を果たされております。

私立専修学校、各種学校の皆様におかれましては、今後とも、本道の振興のために活躍できる、柔軟な発想力や行動力と実践力を身につけた人材の育成に、お力添えをお願い申し上げます。

道では、北海道の無限の可能性を信じ、本道が有する潜在力を最大限に引き出しながら、道民の皆様とともに「輝きつづける北海道」の実現に向けて各種施策を展開しているところであり、依然として厳しい財政状況ではありますが、皆様方とともに、直面する課題の解決に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、北海道私立専修学校各種学校連合会及び会員校のますますのご発展と、皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。ごあいさついたします。

北専各連 創立70周年記念式典・祝賀会

公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会は、平成28年に創立70周年を迎えました。これを記念して8月30日、札幌ガーデンパレスにおいて関係の皆様多数のご出席のもと、記念式典と祝賀会が開催されました。

記念式典

- 開会の辞 副理事長 谷内眞佐子
- 物故者慰霊黙祷
- 式辞 理事長 吉田松雄
- 来賓紹介
- 来賓祝辞
 - 衆議院議員 稲津 久 様
 - 参議院議員 長谷川 岳 様
 - 北海道知事 高橋はるみ 様
 - 専修学校・各種学校振興議員連盟 会長
 - 北海道議会議員 岩本 剛人 様
 - 全国専修学校各種学校総連合会 会長 小林 光俊 様
- 祝電披露
- 北海道知事感謝状授与
 - 学校法人布川学園 理事長 布川 耕吉 様
 - 札幌ビューティーアート専門学校 校長 伊藤 新一 様
 - 専門学校釧路ケアカレッジ 校長 山田 清典 様
 - 学校法人西野学園 理事長 前鼻 英蔵 様
- 受賞者代表謝辞
 - 専門学校釧路ケアカレッジ 校長 山田 清典 様
- 理事長表彰状贈呈
 - 北都保健福祉専門学校 校長 小野 一幸 様
 - 青山建築デザイン・医療事務専門学校 校長 齋藤恵美子 様
 - 専修学校ロシア極東大函館校 校長 イリイン・セルゲイ・ニコラーエヴィチ 様
- 理事長感謝状贈呈
 - EWS感性科学研究所 代表 北守 昭 様
 - 札幌学院大学 名誉教授 廣川 和市 様

ご来賓や会員の方々約200名のご出席のもと、北専各連の谷内眞佐子副理事長による開会宣言とこれまで北専各連の活動にご尽力いただいた物故者に対する黙祷に続き、式辞に立った吉田松雄理事長は関係者への謝辞のあと「今後とも会員校が切磋琢磨し、さらに高みを目指しながら、社会を支え、築いていくことができるよう努力したい」と述べました。

続いてご来賓の方々からご祝辞をいただき、「専修学校のみならず、中・高校生を対象とした教育にも大きく貢献いただいていることに敬意を表する」(稲津久衆議院議員)、「北専各連のために全力を尽くし、皆さまの働く環境の場をしっかりとつくりたい」(長谷川岳衆議院議員)、「健全な学校経営に向けた支援などを通じ、皆さま方と北海道の未来を担う人づくりに取り組んでいきたい」(高橋はるみ北海道知事)、「子どもたちのために一生懸命努力されている皆さまのために、私たちが汗をかきたい」(岩本剛人道議会議員)、「職業教育の先駆者である皆さまに、心から敬意を表する」(小林光俊全国専修学校各種学校総連合会会長)などのお言葉をいただきました。



祝電披露の後、永年にわたって北専各連に貢献された方々に対する表彰式が行われました。北海道知事感謝状は高橋北海道知事から授与され、受賞者を代表して専門学校釧路ケアカレッジの山田清典校長が謝辞を述べました。また、理事長表彰及び同感謝状は吉田理事長から関係の皆さまに贈呈されました。



記念祝賀会

- 開会
- 開会挨拶
 - 北専各連創立70周年記念事業実行委員長 前鼻英蔵
- 来賓祝辞
 - 衆議院議員 吉川 貴盛 様
 - 衆議院議員 和田 義明 様
 - 参議院議員 赤池 誠章 様
 - 文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課
 - 専修学校教育振興室長 白鳥 綱重 様
 - 札幌市議会議員 鈴木 健雄 様
- 祝杯 自由民主党北海道第一選挙区支部長 船橋 利実 様
- 祝宴
- 祝電披露
- 乾杯 副理事長 布川耕吉
- 閉会

記念式典に引き続き隣の会場で、祝賀会が開催されました。前鼻英蔵実行委員長の挨拶に続き、来賓挨拶が行われた後、船橋利実自由民主党北海道第一選挙区支部長の乾杯で祝宴が始まり、再会を懐かしむ方々や新たな交流を深める方々で会場は熱気に包まれました。

最後は布川副理事長の乾杯で会話は締められ、それぞれが名残りを惜しみつつ、祝賀会の幕が閉じられました。



第59回「北海道私立専修学校各種学校教育研修大会」

(全国専修学校各種学校総連合会北海道ブロック会議)

開催日、開催場所

平成28年8月30日、31日の両日、札幌ガーデンパレスにおいて、「職業教育の更なる発展を目指して」と題して、第59回「教育研修大会」を開催いたしました。(主管：札幌支部)

平成28年度は北専各連が創立70周年を迎えたことから、記念式典を挟んで教育研修大会を開催いたしました。

開会式

道内専修学校各種学校関係者約120名の出席のもと、大会長の吉田松雄北専各連理事長があいさつに立ち、冒頭で「本年は北専各連が創立70周年を迎え、大変意義深い年である」とし、続いて「新たな学校種の創設の諮問を受けた中央教育審議会が、5月30日に専門職業大学(仮称)の制度化を文部科学大臣に答申したこと」に触れ、「多くの専門学校がこの学校群に参加できるよう声を上げていきたい」と述べました。



次に本大会の実行委員長である布川耕吉札幌支部長から歓迎の挨拶を申し上げ、ご来賓である北海道総務部法務・法人局の佐藤則子学事課長、全国専修学校各種学校総連合会総連合会小林光俊会長からご祝辞をいただき、その後、講演に移りました。(掲載している講演内容は要旨です。ご了承ください。)

講演

講演Ⅰ

演題「専修学校・各種学校をめぐる最新の動向①」

講師：文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課
専修学校教育振興室 室長 白鳥 綱重 様

【専修学校予算について】

専修学校関係予算は、「人材養成」と「教育基盤整備」という大きくはこの二つの枠組みで進めている。人材養成はさらに「人材育成機能の向上」と「就学支援の充実等」に分けられる。

【人材育成機能の向上について】

○成長分野における中核的専門人材養成等の戦略的推進

産学官の連携を通じながら特に社会人の学び直しに資するカリキュラムをつくるもので、高まっている学び直しのニーズに応えていきたい。



○専修学校版デュアル教育推進事業

専修学校が企業等と連携して行う実習や演習の効果的な教育手法を開発し、ガイドラインとして共有化しようとするもので、企業に対する専修学校の認知度向上に貢献できると考えている。

○職業実践専門課程等を通じた質保証・向上の推進

職業実践専門課程の認定状況は専門学校全体の約3割、2年制以上の学科の約3分の1となっている。学校評価

に加えて新たに情報公開・提供に関する手引きを作成するので、取り組んでいただきたい。

【就学支援の充実等について】

○専門学校生への効果的な経済的支援の在り方に関する実証研究事業

事業の効果をしっかりと検証したいので、積極的な取り組みをお願いしたい。

○専修学校留学生就職アシスト事業等

増加している専門学校への留学生の実態を把握し、留学生受入に対する支援(手引書の作成など)を講じたい。

講演Ⅱ

演題「人口減少社会と地方創生」

講師：北海道経済同友会代表幹事

北洋銀行取締役会長 横内 龍三 様

北海道私立専修学校各種学校連合会が創立70周年を迎えた記念すべき年の教育研修大会にお話しする機会を与えられ、大変光栄に存じます。

本日は少し時間を割いて、戦後の日本経済の軌跡を振り返り、それから直面する北海道の経済問題についての私の意見をお話してみたいと思います。



まず戦後の立ち上がりを見直してみますと、昭和21年に日本国憲法が公布され、その1年後の国勢調査では北海道の人口は385万人でした。これが11年後の昭和33年には500万人を超える、10年ほどで約100万人が急激に増えるという、いまでは信じられない勢いでした。昭和27年には対日平和条約が成立し、12月には日本が国連に加盟していわゆる文字通りの独立国になりました。日本経済の復興振りも際立ったもので昭和31年の経済白書には「もはや戦後ではない」というタイトルが付けられました。

日本経済は昭和20年代、戦後10年で急激な復興を遂げました。昭和29年には終戦を経て10年で青函トンネルプロジェクトが始まっており、今のテンポからすると驚くべきことで、私たちの諸先輩の力強い意気込みを感じます。

昭和30年代に入ると日本の経済成長のスピードが次第に早まります。昭和32年に札幌テレビ塔が完成しました。昭和34年には現在の天皇后陛下のご結婚、このときに日本中でラジオからテレビへの文化の移行が始まりました。当時の池田内閣のスローガンは「所得倍増」でした。そのくらい国民所得の向上が目覚しかったわけです。

昭和30年代を締めくくる最も象徴的な出来事は、昭和39年の東京オリンピック開催。それにわずかに先立っての東海道新幹線の開通です。それから56年を経て2020年に再び日本で東京オリンピックが開催されます。あれから半世紀以上が過ぎるのだとしみじみと感じます。

昭和42年に私は日本銀行に就職し熊本支店に配属されましたが、その当時よく「貯蓄で貢献、輸出で反映」という言葉が使われていました。日本の高度成長は輸出が経済を引っ張るリード役になって、それを支えたのが国民の高い貯蓄率と勤勉な日本人の国民性であったと思います。

一方で、水俣病という日本の公害を象徴するような出来事があり、まだ私は駆け出しでしたがこうした問題は起こ

してはいけなくと強く思いました。中国ではPM2.5問題というのが起こっていますが、日本にもそうした時代があったのだということを美しい日本を若い世代に残していくためにも記憶に留めておかなければならないと思います。

昭和50年以降は次第に成長のスピードが落ちて「安定成長の時代」と言われるようになります。しかし安定成長という言葉とは裏腹に、その当時日本は様々な問題を抱えており、後に日銀総裁となる速水優さんは自著で当時の日本の状態を「海図なき航海」、必要とする地図を持たない航海と言われ一時期流行語となりました。こうした安定成長に向かう中で二つの出来事についてコメントしておきます。一つは昭和48年のオイルショックです。OPECによる石油輸出削減で石油価格が急騰しました。トイレットペーパーの買占めといった現象が起こり、狂乱物価という言葉が流行しました。石油に依存している日本経済の体質への反省から例えば、電力では原子力発電へのシフトも起こりました。二つ目は安定成長期の最後で発生した異常な物価上昇、「不動産バブル」という現象です。北海道では原野商法といって人が立ち入らないような原野を切り売りした結果、道路整備の際の用地買収で大変苦勞するという後遺症を残しています。当時私は日本銀行の大本支店長でしたが、普通のサラリーマンが借金をして投資目的でマンションを買うということが行われました。その後バブルがはじけ、不動産価格が下落して大きな傷跡を日本に残しました。

こうした出来事を契機に、平成に入ってこれまでの成長がぐっと落ち、ゼロ近傍での時代が20年以上続いています。戦後復興から高度成長への20年とは対比的に平成に入って経済のスピードがぱったりと落ちてしまう。同じ20年でこのような違いが出ていることを大変感慨深く思います。

平成9年には北海道拓殖銀行の経営破綻がありました。負債総額が1兆1,500億円という巨額なもので、この後遺症は北海道のみならず日本全体にとっても非常に大きなものでした。

この10年間、日本が長期の経済低迷、低成長を続けているのは、一つは日本が輸出で稼いでいた市場を新興国が奪っている。いわゆる新興国の追い上げです。こうしたことはかつて日本も繊維産業や鉄鋼、カメラなどでアメリカやヨーロッパに対してやってきたことです。もう一つは日本が海外で投資を行うようになってきました。会社としては儲けても国内で新しい投資が起こらなければ投資の力が落ちてきます。日本経済の国内空洞化といわれる現象です。

日本が追い上げていったアメリカの経済はいま、先進国の中では一番良い状態が続いています。アメリカはITやエネルギー分野などで絶えず一歩前へということが実現できている。日本はまだその力が十分でできていません。

なぜ日本はアメリカなどのように良い技術を持っているのにやっているのに追いつけないか、理由の一つは日本が例を見ないようなスピードの人口減少に見舞われ始めていることです。北海道は全国に比べても人口減少のスピードが速い。北海道の人口は1997年頃が570万人でピークでした。いま現在が540から550万人くらいで、これが2025年には495万人、そして25年後には419万人と人口が減っていきます。この間急速に高齢化が進みしかも出生率も低い。そうすると福祉なども現在の状態すら維持できなくなるおそれがありますから、私は少しでも経済が成長ができる世界を目指していくべきではないかと思えます。

北海道にはもう一つ、エネルギー問題というやっかいな問題があります。北海道の域際収支の大幅な赤字のほとんどの原因

はエネルギーです。北海道の電力料金は全国一高く、北海道が経済でがんばろうというときに重石になる要因となっています。

それでは北海道はどうすべきかということですが、まず日本全体として、北海道として新しいビジネス、新しい技術に向かって発展途上国の追い上げを少しでもかわすこと。いろいろな分野で1歩でも2歩でも前に出ること。もう一つは各分野での生産性を上げる努力、工夫をしていかなければならない。生産性が上がれば海外との共存ができるようになります。

北海道はこの4月に「その先の、道へ。北海道」という標語を新しくつくりました。こういう標語を掲げると我われは、本当にそれこそスクラムを組んで、大きな道をつかっていかなければならないと思うわけです。

専修学校各種学校連合会の皆様、またこの連合会のますますのご発展を祈念いたしまして、お話の締めくくりとさせていただきます。

講演Ⅲ

演題「専修学校・各種学校の現状と課題」

講師：全国専修学校各種学校総連合会

事務局長

菊田 薫 様

【全専各連の平成28年度基本方針について】

今年度掲げた次の2つの柱（基本方針）が両輪となって動くことが非常に重要である。

- ①「職業実践専門課程」認定制度の普及・検証と実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化の早期実現
- ②職業実践専門課程の質的な充実を含む専修学校及び各種学校制度の充実・改善に必要な方策の実現

【新たな高等教育機関について】

平成28年5月30日の中央教育審議会答申における「新たな高等教育機関の制度化」は、全専各連が長年取り組んできた一条校化の推進に対する国としての結論であり、職業教育に対する意識が変わっていくことになる。具体的な設置基準等については今後、学校教育法の所要の改正とともに明らかとなる見通し。

【生涯学習の振興について】

また、この答申の第2部に記載されているように、生涯学習の振興についても並行して議論されてきた。こちらも専修学校・各種学校にとって重要な事項である。生涯学習についてはこれまでも様々に取り組んでいるが、今後、大きく光が当たってくる部分である。

講演Ⅳ

演題「専修学校・各種学校をめぐる最新の動向②」

講師：文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課

専修学校教育振興室 室長

白鳥 綱重 様

【私立学校施設整備費補助金について】

教育施設であることや災害時の避難場所としての活用等を考慮し、補助金も活用して施設の耐震化を進めていただきたい。

【専修学校等に関連する閣議決定について（抜粋）】

次の閣議決定の中に専修学校等関連の記載があるので、ご覧いただきたい。

・日本再興戦略改訂2016（平成28年6月2日閣議決定）

「地域の観光産業を支える、旅行者の多様なニーズに応える人材を育成するため、専修学校等の教育機関と産業界が連携し、教育プログラムの改善・向上を図る。」

「専修学校についても、グローバル化に対応した人材育成のための有学生受入れ促進等に関する方策や、「職業実践専門課程」の実績検証等を含めた専修学校教育の在り方について、本年度中に検討し、産業界のニーズを踏ま



えた専修学校の専門人材の育成機能の強化と質の保証・向上を図るために必要な制度的措置等を来年度までに講じる。」

・ニッポン一億総活躍プラン(同)

「家庭の経済事情に関係なく、希望すれば誰もが大学や専修学校等に進学できるよう、安定財源を確保しつつ、奨学金制度の拡充を図る。」

「大学・専修学校等における実践的な学び直し機会の提供を図る。」

・経済財政運営と改革の基本方針 2016 (同)

「子育て等で一度退職した正社員等の復職やキャリアアップへの道が一層開かれるようにするため、企業への働きかけ、大学・専修学校等における実践的な学び直し機会の提供を推進する。」

【これからの専修学校教育の振興のあり方検討会議について】

制度創設から40年を経た専修学校について、人材養成、質保証向上、学習環境を柱として改めて問い直し、検討を行っているところ。各委員から論点に沿って様々なご意見、ご指摘をいただいております。8月にそれまでの審議経過をまとめ公表した。引き続き検討を進めて専修学校等教育の進むべき方向性を確認し、年度内に振興策をまとめたい。

【公職選挙法の改正について】

選挙年齢の引下げが行われたことから、選挙権、政治参加について、その意義等を含めてしっかりと周知をお願いしたい。

講演Ⅴ

演題「職業実践専門課程制度について」

講師：文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課

専修学校教育振興室 室長 白鳥 綱重 様

平成23年の中教審の答申で新しい高等教育機関について新たな枠組みづくりが提言され、職業実践専門課程はその先導的試行としてスタートした。

認定要件としては大きく二つの要素があり、一つは産学連携を組織的に行うことで、例えば企業等と連携した実習・演習や教育課程の編成などがあり、もう一つは取組の「見える化」で、具体的には学校関係者評価や情報公開である。

職業実践専門課程の効果としては大きく、「学校運営等の組織的な改善」「教職員の意識改革」「派遣講師の資質能力」「学生の実践力の向上」「業界ニーズの反映」「教育内容の充実」の6つに整理できる。

他方、課題も整理しており、「取組の意義等の理解共有」「認定後の取組充実」「質の向上・実態把握」「社会人向けの講座開設」が調査研究で挙げられている。

平成27年度の審査を踏まえ、手続きに関し一部の様式の統一、提出書類の変更、推薦締切日の前倒しなどの見直しを行ったが、何よりも取組の充実を図ることが大変重要であり、しっかりと進めていただきたい。

職業実践専門課程に関する事例発表

1「法人の設立趣意、学園コンセプト、学校の現況」

学校法人産業技術学園 事務局長 切明 毅 様

私たちの学園は恵庭市で、3校を運営しております。恵庭市は地方創生に積極的に取り組んでおり、私も検討組織に委員として参画しつつ、学園としても地方創生に貢献できるような学校教育をしたいと考えています。



学校は昭和63年に開校し29年経ちますが、特に地

方都市においては、地域とともに成長する学校運営が非常に大切です。本年2月に恵庭市と包括連携協定を結びました。学生が恵庭市の地域課題と向き合うことで、卒業してそれぞれの地元に戻ったときに、地域課題に真正面から取り組める学生を育成していくのが本校の役割だと考えております。

2「産学官連携事例の紹介」

北海道ハイテクノロジー専門学校

産学官協同教育研究センター

小鷹 丈彦 様



私からは「まち・ひと・しごと・まなび」をテーマに、学生の成長の軌跡をご紹介します。

恵庭市には特産品を活用した新商品開発、販路拡大、情報発信を目的とした「恵

庭農工商等連携推進ネットワーク」があり、本校もこのネットワークに加盟し、商品開発の成果を学生が主体となって発表したところ、地域の多くの方々に参加してくださり、学生にとっても大変貴重な学びの場となりました。

恵庭市の方々に対する気持ちと学生が地域に貢献したいという志が、この成果に繋がったと考えております。

3「職業実践専門課程の取組と現況」

滋慶学園グループ北海道エリア コンプライアンス室長

田辺 敦 様

本学園は1法人3校で運営を行っており、職業実践専門課程には開始と同時に申請して認定を受け、現在は17学科で認定を受けております。

本学園は「産学連携」「ファカルティ・ディベロップメント(教育改善のための組織活動)」「教育力の向上」の3つの柱を中心に学校評価、情報公開を行い、教育課程の編成による教育の質の向上に努めています。

評価活動では学校ごとに自己点検自己評価、学校関係者評価、教育課程編成の各委員会を設置し、協議検討内容は理事会運営会議を通じて改善・改革を図っています。

外部委員には本学園を理解いただくため、様々な行事への出席の機会を設け、委員会の開催に当たっては、客観性、透明性が担保され、かつ具体的な改善及び工夫ができるよう組織しています。

また、教員の教育力、人間力の向上のため、「専攻分野における実務に関する知識・技術・技能」「事業及び学生に関する指導力」「教育マネジメント等に関する専門能力」の取得・向上の3つの視点により研修の機会を確保しています。

職業教育に関しては様々な検討が進められていますが、我々専門学校は質の高い職業教育、職業人育成を実践していく必要があります。また、18歳人口が減少するなか、高等学校の受け皿としての職業教育機関に限らず、社会人の学び直し枠にも積極的に門戸を開き、新たな職業教育学校としての発展を続けていくことが重要と考えております。

閉会式

北専各連の浅井洋子研修委員長から、研修大会及び創立70周年記念式典・祝賀会が盛会に開催されたことに感謝申し上げるとともに、「一緒に前に進んでいきましょう」という言葉で研修大会を閉会しました。

平成29年度事業計画

本連合会は、北海道の私立の専修学校及び各種学校における教育の振興を図り、もって教育水準の向上発展に寄与することを目的として、平成29年度において私立専修学校各種学校に関する研修会を始めとする職業教育を行う専修学校各種学校の支援等に繋がる各種事業を展開いたします。

公1事業

北海道内の職業教育の充実を図ることによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1)「北海道まちかど学園」事業の実施

生涯学習社会を迎え、「誰もが、いつでも、どこでも、何でも学び生き生きとした社会を創る」ことを目的として、道民を対象として道内各地の専修学校各種学校を活用した公開講座を開講します。

(2) 北海道高等学校進路指導協議会等との連携事業

進路指導を行う高等学校の教職員等に、専修学校や各種学校が提供する職業教育への正しい理解をもってもらうことを目的として、北海道高等学校長協会(公私立)及び北海道高等学校進路指導協議会と連携し、高等学校の進路指導担当教員と専修学校等の教師を対象とする研究会や情報交換会、進路指導相談会等を開催・実施します。

(3) 高校生向け出前授業

職業体験等を通じてキャリア教育の推進・充実を図ることを目的として、高等学校と連携し、より多くの高校生を対象に高等学校内キャリア教育プログラムを実施します。

(4) 次世代人材職業体験推進事業の実施

若年者の職業観、勤労観の形成不足等による地域社会の課題の解決に向けて、職業体験の機会に恵まれない中学生を対象とした職業体験講座等、専修学校を活用した職業体験支援事業を展開します。

(5) 進路指導相談会の開催

北海道高等学校長協会及び北海道高等学校進路指導協議会と連携を図り、新規学卒者(高校生)、キャリアチェンジを希望する者(社会人、短大大学生)、定職に就くことを希望する者(フリーター、派遣職員等)、保護者、教師等を対象に、就ける職種や職業を考える場を提供するとともに、各分野の会員校が有する職業及び職業教育情報並びに専修学校等に関する情報等を提供します。

(6) 各種刊行物の刊行

- ・職業を考える機会を提供するために、高校生や中学生を対象に「オシゴトガイド」を発行します。
- ・高校生が進路として見出した専修学校等が何を指し

て職業教育を行うところなのか等を見極め、高校生や進路指導の教師が正しい理解を得るために、「進学ガイド」を発行します。

- ・保護者に、専修学校とは何か、教育資金はどれだけ必要か、奨学金制度はどのようになっているのか等を正しく知っていただき、生徒を正しく導いていただくための資料として「保護者版進学ガイド」を発行します。
- ・高等学校教員に専修学校が提供する職業教育のカリキュラム等の内容を正しく知っていただき、高校生の進路ミスマッチがないよう指導していただくために、「専修学校概要」を発行します。

(7) インターネット事業

インターネット上に、ホームページを開設することにより、広く一般に当連合会の活動や私立専修学校各種学校における職業教育への理解を深め、誤った進路選択を是正するとともに、私立専修学校各種学校の振興発展に資することを目的として情報発信を行います。

公2事業

北海道内の私立専修学校各種学校を支援することによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1) 教職員の資質向上事業

職業教育の充実と教職員のさらなる資質向上を図ることを目的として、より多くの参加者を募って教育研修大会を開催します。

(2) 教職員退職手当給付事業

教職員の待遇面における格差を是正し、職業教育を提供する優秀な人材を確保するとともに、専修学校各種学校の教職員が安心して教育活動が行うことができる環境を整備するため、設置者(校)に対する支援を行います。

平成29年度予算は公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会のホームページ(<http://www.hsu.ac>)でご覧下さい。

平成28年度事業報告

2016(第45回)専門学校進学相談会

4月から6月にかけて2016年度春期専門学校進学相談会を開催しました。また、今年度は平成29年2月に室蘭と苫小牧を会場に進学相談会を開催しました。開催結果は下記のとおりです。

昨年度に引き続きジョブカフェ北海道のご協力をいただき、カウンセラーによる職業興味検査及び職業相談を実施するとともに、旭川、北見、室蘭、函館の各会場では企業や専門学校による職業説明・職業体験コーナーが設けられ、来場した高校生等が職業への興味や関心を深める機会となりました。



開催地	開催日	参加 専門学校	来場者数(人)				
			生徒	父母・一般	先生	職業相談	職業興味検査
釧路	4月14日(木)	57	110	5	8	23	23
中標津	4月15日(金)	52	102	1	9	43	43
滝川	4月18日(月)	48	130	2	5	6	6
留萌	4月19日(火)	44	62	5	6	26	26
札幌	4月21日(木)	70	162	9	6	46	46
旭川	4月26日(火)	52	38	2	1	18	18
北見	4月27日(水)	60	156	3	15	35	35
名寄	5月9日(月)	44	174	2	10	68	68
稚内	5月10日(火)	48	60	1	6	28	28
苫小牧	5月12日(木)	37	42	1	4	23	23
室蘭	5月13日(金)	31	9	7	2		
帯広	6月2日(木)	63	45	5	3	19	19
函館	6月30日(木)	59	71	9	3	14	14
春期開催計		665	1,161	52	78	349	349

室蘭	2月9日(木)	29	65	3	4	32	32
苫小牧	2月10日(金)	29	32		2	24	24

キャリア教育プログラム

北海道教育委員会の指導により道立高等学校において、業者等に依頼して行う校内説明会等の実施が困難となったことから、高等学校内におけるキャリア教育・職業教育の支援を目的として、「キャリア育成講話」「専門学校講話」「職業・職種講話」「体験型授業」「進学相談会」の5つのプログラムからなる「キャリア教育プログラム」を平成28年4月から全道展開しました。

今年度開催した高校は42校で、5,029名の高校生が受講されました。平成29年度も引き続き実施いたします。詳しくは北専各連ホームページ(<http://www.hsu.ac/demae/>)をご覧ください。



〈実施した高等学校〉

● 専門学校講話

岩内高等学校
小樽桜陽高等学校
北見柏陽高等学校
名寄産業高等学校

● 職業・職種講話

小樽工業高等学校(定時制)	美幌高等学校
札幌月寒高等学校(定時制)	南茅部高等学校
札幌東高等学校(定時制)	湧別高等学校
千歳北陽高等学校	遠軽高等学校
津別高等学校	倶知安高等学校
苫前商業高等学校	東川高等学校
名寄産業高等学校	

● 体験型授業

厚真高等学校	寿都高等学校
石狩翔陽高等学校	天塩高等学校
岩内高等学校	弟子屈高等学校
岩見沢東高等学校(定時制)	苫前商業高等学校
江差高等学校	根室西高等学校
追分高等学校	檜山北高等学校
上富良野高等学校	深川西高等学校
倶知安高等学校	双葉高等学校
訓子府高等学校	有朋高等学校
札幌西陵高等学校	余市紅志高等学校
札幌東陵高等学校	利尻高等学校
佐呂間高等学校	留萌高等学校
新十津川農業高等学校	

次世代人材職業体験推進事業(道補助事業)

● 中学生を対象にした職業体験講座の実施

近年、若年者の職業意識や進路意識の未熟さなどから、離職率の上昇やフリーター、ニートの増加が問題となっているため、職業観・勤労観の早期形成を目的として、平成21年度から道の補助(補助事業名:次世代人材職業体験推進事業)を受け、職業体験の機会に恵まれない中学生を対象に職業体験講座を実施しています。

職業体験施設を有する専修学校等において、専門性の高い授業を体験することによって、具体的に進路を意識したり働くことについて考えるきっかけとなることや、この取組みが若年層の職業選択のミスマッチをなくす一助となることを期待しています。



● 平成28年度に実施された講座(主なもの)

自動車整備士の仕事体験、プログラミング体験、農業体験、歯科衛生士の仕事体験、理学療法士・作業療法士の仕事、鍼灸・柔道整復体験、調理師・パティシエ体験、美容師体験、保育士体験、ペットトリマー・ドクトレーナー体験、ファッション業界の仕組み、スポーツの仕事、声優・俳優・タレントになるためのレッスン(平成28年度実施結果) ○参加中学校数:255校 ○開催講座数:1,721講座 ○受講人数:約12,300人

教員能力認定研修会

教員能力認定委員会では、北専各連とともに私立専修学校各種学校教員の資質の向上を図り、優れた教員の確保に資することを目的として、毎年、教員能力認定研修会を開催しています。

平成28年度からは北海道の指定を受け、北海道知事が発行する「研修修了証明書」ならびに「教員資格証明書」を得ることができ、「職業実践専門課程」の認定要件である研修会としても活用できる研修会となりました。平成28年度は7月25日から8月1日までの6日間に9科目を開催しました。

平成29年度も同様に開催しますので、多くの教職員の皆さまの受講をお待ちしています。



学校評価に関する研修会

専修学校・各種学校における学校評価については、教育活動及び学校運営の質の保証や向上に向けて、平成19年度の学校教育法の改正により自己評価の実施・公表が義務化され、また、学校関係者評価の実施・公表が努力義務とされました。

また、平成26年度からスタートした「職業実践専門課程」では学校関係者評価が認定要件の一つとされていることから、この学校評価の取組を積極的に推進するため、昨年に引き続き、平成28年12月16日（金）13時から札幌ガーデンパレスにおいて研修会を開催しました。

内容は、北海道総務部法務・法人局学事課の遠藤克大主査、近藤美幸主任から学校評価制度についてご講義をいただき、続いて学校法人西野学園の前鼻英蔵理事長から、「専修学校の質保証の現状と将来」と題して、自己評価、学校関係者評価実務のポイントについてご講義をいただきました。

当日は62校から103名の方々のご参加をいただき、大変有意義な研修会となりました。



文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会

文部科学大臣が認定し奨励する制度として平成26年度からスタートした「職業実践専門課程」は、「教員に対し、授業及び生徒に対する指導能力等を修得・向上するための組織的に位置付けられた研修・研究の機会を確保していること」が認定要件の一つとなっていることから、北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会は会員校を支援するために今年度も研修会を開催しました。



【第1回】

開催日時 平成28年7月22日（金）
15時～16時30分

開催場所 京王プラザホテル札幌

対象者 当連合会会員校ほか、専修学校等の教職員

講師 一オフィスレアリーゼ代表／心理カウンセラー
神田 裕子氏

演題 「性格と病理の境界線とは？」
～今どきの学生とのつきあい方～

参加校・人数 44校 171名

講演の概要

ご自身の経験や知識をもとに、最近の学生の様々な性格別のカウンセリング方法について、指導者の立場としての学生への接し方や教員の側のストレスへの対処のしかた、また、同僚への接し方など軽快な話術で楽しくご指導いただきました。

身近で多くみられる精神疾患の見分け方や対処法など、すぐに役立つ知識が得られる大変実のある研修会となりました。

大変多忙な神田先生ですが、終了後にも受講者からの相談に熱心に対応されていました。

【第2回】

開催日時 平成28年12月16日（金）
15時～16時30分

開催場所 札幌ガーデンパレス

対象者 当連合会会員校ほか、専修学校等の教職員

講師 一札幌大学名誉教授— 佐藤 勝彦氏

演題 「学ぶ意欲を育む教育の方法」

参加校・人数 56校 170名

講演の概要

学習意欲を育む上で土台となる支えは「安心して学べる環境」で、その中心的存在は教員であり、教員の意図的な働きかけが不可欠である。また、保護者や地域の住民、教育委員会等の社会とのつながりも必要であり、小中学校から「キャリア意識」を持つことが、その後の生涯にわたる学習意欲につながると述べられました。

また、教育の歴史をひも解きながら、現在の教育の問題点について説明いただくとともに、今後の教育のあり方について講義をいただきました。

要請活動等

●国に対する要請活動

平成 28 年 9 月 1 日に吉田理事長が就任後間もない松野博一文科科学大臣と面会し、「職業実践専門課程認定制度の着実な推進」と「実践的職業教育に特化した新しい高等教育機関の創設」、さらには「授業料減免措置等に係る財政支援措置」を要望しました。

●道に対する要請活動

平成 28 年 10 月 20 日に「平成 28 年度自民党道連団政策懇談会」が開催され、私学団体が連携して、各団体が抱える懸案事項の解決に向けて要請を行いました。当連合会からは次の事項について強く要請しました。

- ・私立専修学校等管理運営対策事業補助金の増額を図ること。
- ・「職業実践専門課程」認定校に対する新たな助成措置を講ずること。
- ・国に対し経済的困窮者を対象とした授業料減免措置等の恒久的な支援策の創設を働きかけるとともに、道としても財政支援措置を講ずること。
- ・専修学校高等課程生徒に対する授業料軽減措置の拡充を図ること。
- ・職業実践専門課程教員研修事業補助金の継続を図ること。

また、平成 28 年第 4 回定例道議会において、衆参両議院議長、内閣総理大臣、文部科学大臣等に対する「私立専修学校等における専門的職業人材の育成機能の強化等を求める意見書」を採択していただきました。

●市町村に対する要請活動

札幌市内の中学生在が将来の生き方や進路について学ぶための取組として、札幌市教育委員会からの受託事業として実施している「進路探求学習オリエンテーリング事業」について、平成 28 年 10 月 24 日、自由民主党札幌市支部連合会に対し、より多くの中学生が受講できるよう事業の拡充を要望しました。

意見案第 2 号

私立専修学校等における専門的職業人材の育成機能の強化等を求める意見書

私立専修学校各種学校（以下、「私立専修学校等」という。）は、時代に伴い変化する産業や地域社会の要請に応え、職業に必要な知識・技術・技能について実践的な教育を行い、即戦力となる専門的職業人材の育成に努め、地域の産業・経済の発展や文化の振興等に貢献している。

また、職業資格者を養成する教育機関として、社会人のキャリアアップ等の学習機会の提供や国や本道が行うキャリア教育の補完等もとより、厚生労働省の行う離職者対策事業や文部科学省の行う成長分野における人材育成のためのシステム構築等においても重要な役割を果たしている。

このような中、本年 6 月 2 日に閣議決定された、「日本再興戦略 2016」、「経済財政運営と改革の基本方針 2016」及び「ニッポン一億総活躍プラン」においては、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化が明記され、平成 31 年度の開学に向けた具体的な制度設計が本格的に開始されたところであるが、奨学金制度の充実など、全ての子どもが希望する教育を受けられる環境の整備について、さらに取り組む必要がある。

よって、国においては、働き方改革等を通じて地方創生と一億総活躍社会の構築を達成するという観点から、地域産業を担う専門的職業人材を育成するための教育がさらに重要性を増していることや、私立専修学校等が学校教育法第 1 条に規定されていないため、大学等と比較し、さまざまな格差が生じている現状等に鑑み、次の措置を講ずるよう強く要望する。

記

- 1 私立専修学校等における実践的な職業教育の質保証・向上を図り、多様な社会的要請に応じていくため、平成 26 年 4 月から開始された「職業実践専門課程」認定制度を着実に推進するとともに、「実践的な職業教育に特化した新たな高等教育機関」の具体的な制度設計について、本年 5 月 30 日に中央教育審議会が取りまとめた答申を踏まえながら、確実に所要の制度上の措置を講ずること。
- 2 意欲と能力のある専修学校の学生が、経済的理由により修学を断念することなく安心して学べるよう、経済的な困窮者を対象とした授業料減免措置の恒久的な支援策を講ずるとともに、「実践的な職業教育に特化した新たな高等教育機関」の制度化に当たり、公的助成、奨学金制度等について、既存の大学等との整合性を図ること。
- 3 少子化や深刻な経済・雇用情勢等に伴い、私立専修学校等を取り巻く環境はますます厳しさを増していることから、経営基盤安定のための新たな財政支援措置を講ずること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により提出する。

平成 28 年 12 月 15 日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
財務大臣
総務大臣
文部科学大臣

各通

北海道議会議長 遠藤 連

平成 28 年度受章者

平成 28 年度に叙勲を受章された方々に対し、その栄誉を称え心から祝意を表しますとともに、会員の皆様に受章者の功績概要等をご紹介します。



叙勲(瑞宝双光章)

学校法人北斗文化学園
理事長

澤田 豊先生

先生は昭和 41 年、室蘭市において学校法人室蘭文化学園（現北斗文化学園）の経営に携わり、昭和 49 年には同法人が設置する登別文化幼稚園（現リリー文化幼稚園）の園長に就任、昭和 62 年には同学園室蘭文化専門学校（現北海道福祉教育専門学校）校長に就任され、様々な年代の方々の教育に尽力してこられました。

平成 8 年から北海道私立学校審議会委員、同 10 年からは北海道社会教育委員を歴任され、私立学校の振興に尽力されるとともに、北海道における生涯教育に寄与されました。

また、関係諸団体の役員として、介護福祉士の資質向上や社会福祉の充実、調理技術の向上と食文化の発展に貢献するなど、教育のみならず福祉、文化、地域振興など多方面で、多大な功績をあげられました。



叙勲(瑞宝単光章)

学校法人谷内学園理事
北海道文化服装専門学校
校長

谷内真佐子先生

先生は、昭和 43 年に北海道文化服装学院に勤務され、翌昭和 44 年にいち早くヨーロッパを視察、服装を北国の文化として発展させるべく世界を見据えた服飾デザイン教育の実践に努め、服飾業界を担う多くの人材の輩出に尽力されました。

教育においては「実践的な職業教育と社会人としての人間教育の提供」を掲げ、生徒の就業意欲やチャレンジ精神を育むため様々なデザインコンテストを授業に活用するほか、学生に企業の職場実習を経験させるなど、服飾業界の即戦力となる人材の育成に努めてこられました。

また、当連合会の副理事長や札幌支部長として、専門学校進学相談会や職業体験講座の開催、教職員の資質向上のための研修会の開催などにも積極的に取り組まれるなど、連合会の発展に寄与されました。

支 部 だ よ り

札幌支部

支部長／布川 耕吉

日頃より、札幌支部への多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成28年度は北専各連が創立70周年を迎えましたことから、記念式典・祝賀会が盛大に執り行われ、札幌支部では同日に開催した第59回教育研修大会を主管いたしました。

また、今年度も進路探究学習オリエンテーリング事業や体育事業をはじめ、様々な取り組みを展開いたしました。

第58回さっぽろライラックまつり

5月21日・22日に大通公園で開催された「さっぽろライラックまつり」に専門学校の学生が新しいライラック娘の衣装で参加協力いたしました。



新しい衣装は、服飾の専門学校の学生がデザインし、親しみやすい「赤ずきんちゃん」をイメージしたもので、華やかな雰囲気でご会場を盛り上げました。

緑の募金活動

4月15日～5月31日に7校472名の専門学生が参加し、「緑の募金」活動を行いました。この活動への功績に対して「公益社団法人北海道森と緑の会」理事長から感謝状をいただきました。

体育事業

6月7日～30日の間の8日間にわたり、美香保体育館等で5種目（バスケットボール・バレーボール・フットサル・卓球・バドミントン）の球技大会を実施しました。

進路探究学習オリエンテーリング事業

7月26日～8月24日の夏休み期間中に札幌市教育委員会の提唱する進路探求学習オリエンテーリング事業を実施しました。

札幌市内の中学・中等教育学校1年生と昨年受講していない2年生を対象に募集を行い、今年度は札幌市内の中学校等の100校のうち92校から1,093名の参加申込がありました。このうち受講決定者数は1,020名（昨年953名）で、実施当日の受講者数は872名（昨年791名）でした。

また、保護者の見学者数は年々増加し、今年度は514名で昨年度に比べ146名（約40%）増加し、この事業への保護者の関心の高さを伺わせました。

北専各連創立70周年記念教育研修大会

8月30日・31日に札幌ガーデンパレスにおいて、「職業教育のさらなる発展を目指して」を大会主題に開催いたしました。詳しくは3ページに掲載しています。

現職教員新年研修会・新年交礼会

平成29年1月13日に札幌ガーデンパレスにおいて、曾

田雄志氏（北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツビジネス専攻スポーツマーケティング研究室 専任講師/元コンサドーレ札幌選手）をお招きし、研修会を開催いたしました。曾田氏からはご自身の経験をふまえた、貴重なお話をお伺いしました。



函館支部

支部長／奥 ひろみ

日頃より支部の活動につきまして特段のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

また、新任支部長でございましたが、皆様からご指導を賜り、無事に年度を終えられますこと、重ねてお礼申し上げます。

さて、今年度は支部にとって初めての取り組みである相談会に職業講話と体験ブースを併設する件について、昨年度から協議と準備を進め、6月の通常総会を経た後に無事開催となりました。

8月には、相談会について実務担当者による反省会を開催し、次年度の改善について意見の交換をしました。

11月に再び実務担当者会議にて次年度開催の相談会に関し、企業等による体験職種の拡大に伴う各校の協力や、速やかな告知活動を課題とし、担当者の増員と連携について協議しました。

このように、企業による職業体験を併設した新たな形での進学相談会の成功について、現在の支部で出来る限りの準備が整うよう、打ち合わせを重ねた年度でありました。

広報活動としては、例年通り北海道新聞紙面に支部として合同広告を掲載いたしました。更に、年度末にかけましては職業教育についての説明と、学校紹介を兼ねたリーフレットを作成し、渡島・松山管内の中学生を対象に配布予定となっております。

その他として、理事会や委員会に出席した際には、支部加盟校のメーリングリストを活用して、随時報告することによって情報の共有を図りました。

函館支部は加盟校9校が、支部に課せられた役割を果たせるよう、これまでのように力を合わせ尽力に努めてまいります。

空知支部

支部長／齋木 修二

日ごろより当支部の運営におきまして多大なご支援を賜

り、心よりお礼申し上げます。空知地方は営農、林業、鉱業などを中心とした豊かな経済圏でありましたが、時代の変化と共に少子高齢化が進んでおります。

空知地方は、大きく分けると岩見沢市を中心とした南空知と滝川市を中心とした北空知に分類されます。管内の高校数は南空知が9校、北空知が12校で合計21校となっておりますが実質的には南空知は経済圏が札幌寄り、北空知の半分は旭川寄りとなっている特異な地域でもあります。今年度の高校の出願状況を見ておりましても募集定員を超える学校はごくわずかで、ほとんどが生徒確保に苦しんでいるところですので。こうした中で上級学校への進学や地元への就職状況を見てみると、両者とも札幌を中心とした都市圏への流出が非常に多いのが現実です。

そこで空知支部としては、進学したのちのUターン就職の促進と高卒採用での地元就職を増やす目的で、まず手始めに公務員を希望する生徒に連合会主催の進学相談会に来てもらいたいと考えました。空知地方唯一の相談会開催地である滝川市の進学相談会では、近隣市の行政機関として滝川市役所、砂川市役所、芦別市役所の職員係に参加を促しました。それに加え地域の医療を支える市立病院の職員係、地域や国の安全を支える警察、消防、自衛官の採用担当にも進学相談会にご参加いただき、専門学校への入学説明にとどまらない地域の活性化をも考えた相談会を模索することといたしました。

就きたい職業を理解することで必要なスキルアップを目指して進学し、勉学に励んで、よりよい社会人としてまた地元に戻ってきてもらいたいと考えております。

地域がより活性化するためには何が必要か、今後は商工関係とも連携を取って、より質の高い教育を行うことが我々専門学校に課された使命ではないでしょうか。

旭川支部

支部長／肥田 敏一

日頃より旭川支部へのご支援、ご指導を賜り心よりお礼申し上げます。

平成29年度も変わらぬご指導の程よろしく願い申し上げます。

旭川市政の基本計画では、中心市街地活性化、企業誘致による雇用の創出や地域経済の活性化、子育て支援の取り組みなどがあげられました。

しかし、我々が一番懸念している18歳人口の減少、都市部への流出などが年頭挨拶になかったのが、今後の旭川市人口減少にどう影響するのかがとても心配で残念に思いました。

ちなみに2017年の旭川の18歳人口は2,847人で横ばい状態ですが、年々増えている大学進学率は40%を超えました。

18歳人口の減少に伴い高等学校の統合や学級減少、廃校が進むなか、2021年予定の大学実践専門課程の実施などによって専門学校の状況はさらに厳しくなると思います。

平成28年度の旭川支部8校の入学定数率は69%でした。昨年の支部活動として9校全体参加を基本に親睦交流会、広報担当者を対象にしての教育研修会を実施しました。

また、イベントを多数企画して、高等学校、地元地域への発進力に力を入れてまいりました。

高等学校への旭川支部連合のポスター配布、新聞掲載広告、北専各連相談会の職業体験コーナー実施、地域イベントであるマルシェ・フェスタ祭などへの参加で地元の専門学校PR活動を実施しました。

今後も旭川の若者が流出しないよう専門学校の役割をしっかりととらえて魅力ある、そして信頼される学校づくりに旭川会員校一丸となって活動したいと思っております。

北見支部

支部長／栗原 寛隆

昨年度は一方ならぬご厚情深く御礼申し上げます。北見支部も無事新年度を迎えることが出来たのも、ひとえにご厚情によるものと深く感謝いたしております。本年度も倍旧のご愛顧の程お願い申し上げます。

北見支部では毎年、傘下各校によるスポーツ大会「北専各連北見支部第13回スポーツフェスティバル」が開催され、3種目（ソフトバレー・ドッチビー・障害物リレー）で熱戦が繰り広げられました。フェスティバルは5月20日（金）、昨年と違い会場を市内の道立体育館の一会場にして開催され、北見美容専門学校、オホーツク社会福祉専門学校、北見情報ビジネス専門学校、北見商科高等専修学校から、16チームが参加して行われました。

競技の対抗戦でそれぞれ点数を積み上げられ、本年度は最終種目の障害物リレーが終わるまで、どこのチームが優勝するかわからない状況でした。最終種目前に2種目で上位を取った、オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科2年生が優勝し、北見情報ビジネス専門学校1年生は最終種目の障害物リレーで優勝し、それまでの6位から見事な準優勝、僅差で北見商科高等専修学校の3年B組が3位に入りました。最終試合後は先生方を交えての障害物リレーエキシビジョンが行われ、各校先生方への声援で会場は大いに盛り上がり無事終了いたしました。

全競技が終了したのは夕方4時、普段はなかなか汗をかく機会が少ない専門学校生もこの日ばかりは心地よい疲労感に満足した笑顔を見せていました。

— 以下成績 —

- ◎総合優勝 オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科2年
準優勝 北見情報ビジネス専門学校 1年
3位 北見商科高等専修学校 3年B組

◎各種目別

【ソフトバレー】

- 優勝 オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科1年
準優勝 オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科2年
3位 オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科2年

【ドッチビー】

- 優勝 オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科2年
 準優勝 北見商科高等専修学校 3年B組
 3位 北見美容専門学校 2年

【障害物リレー】

- 優勝 北見情報ビジネス専門学校 1年
 準優勝 オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科2年
 3位 北見商科高等専修学校 3年A組

道東支部

支部長/山田 清典

平成28年度は日本中、災害の年でありました。

熊本大地震を始め、6月から9月にかけての大雨による災害、そして記憶に新しい8月の4回に渡る台風の襲来。北海道は河川の氾濫、住宅の浸水、農作物の被害、道路や橋の崩壊など大打撃を受けました。

今なお、復旧に時間が掛かっている地域の方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、相変わらず少子化や経済の停滞に問題を抱えている道東ですが、全専門学校が連携しあって「道東の専門学校の魅力作り」に励んでおります。

まず、例年行われている「釧路市民北海盆踊り大会」ですが、今年度は、あの激しい台風の影響のため、支部として「不参加」としました。毎年、釧路市民に「活力ある専門学校」の存在をアピールしてきましたが、残念でなりませんでした。

また、年末には、恒例の支部研修会を開催しました。



今回は、釧路短期大学の岩松講師をお招きして、「失敗から学んだこと」という演題で講演をいただきました。

また、その後、各学校の教員間の親睦を深め、全員で北専各連の益々の発展を誓い合いました。

各学校の事業を報告いたします。

道東ヘアメイク専門学校では、千葉県で開催された「芸術祭全国大会」学生振袖の部で審査員特別賞を受賞しまし

た。また、富山県で行われた第8回全国理美容甲子園に出場しました。

釧路専門学校では、環境・教育研究センター等の主催で「釧路自然再発見シリーズ」を5回実施しました。また、リカレント教育講座として「ムーブメント講座」の開催、「ALSに関わる自宅介護」についての深沢氏の講演会、「アクティビティ・ケアフォーラム」の共催、加藤理学博士を招聘しての「さかなに関わる講演会」等を開催し、市民を巻き込んでの教育活動を実践しました。

釧路商科専門学校は例年通り、パソコン等、地域の職業教育に頑張っています。

釧路孝仁会看護専門学校では開校4年目を迎え、38名の新入生が看護への第一歩を踏み出しました。

専門学校釧路ケアカレッジでは、今年もソロプロティミストのボランティア活動である「アミティフェスタ」に参加し、障がいのある方々と交流をしました。また、「年金セミナー」の授業で年金について理解を深めました。

胆振日高支部

支部長/澤田 真奈美

日頃より胆振日高支部の運営に多大なるご支援を賜りますこと心より御礼を申し上げます。胆振日高支部は7校を会員の支部で、進学相談会を中心とした活動内容となっております。

さて、日本の人口減少の速度が益々上がる中、地方における人口減少は更に猛スピードで人口減少に歯止めをかけることなく進み、地域社会の持続性を鑑みた場合、どのようにして専修学校が地方で生き残りをかけて時代の流れに合わせて変化することが出来るかということが最大の課題となります。

世界の基軸が大変革期の真只中にあり、日本においても様々な分野に於いて大変革が求められている現在、専修学校は何をなすべきかを追及しますと、教育理念や校是に基づいた「質の高い人材育成」こそが、地域社会、そして日本の経済を救う最も重要な国策ともいべき事業となることであると確信しております。

そのため、専修学校に於いては、国が政策として推進する「職業実践専門課程」に一枚、一課程でも多く申請されることで、高い資質を伴う専修学校として、日本経済を今後担う人材への教育をより一層追及し、専門職業人材が、直接社会に貢献することにつながる役割を果たす必要があると考えております。あわせて、グローバル化に対応できる人材育成を視野に入れた教育機関となることを地方においても努力することが重要なことであると思います。

今年も、支部会員校の皆様のお力を賜りながら、専修学校各種学校が、社会から最も信頼される教育機関として評価されて、その運営が持続することに邁進して参りたく存じますので、一層のご協力を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

会員校の動き

【退会】

■ 専門学校日本福祉学院

2017(第46回)専門学校進学相談会開催日程

開催地	開催日時	会場
釧路	4月13日(木) 15:00~18:00	ANAクラウンプラザホテル釧路
中標津	4月14日(金) 15:00~17:30	トーヨーグランドホテル
滝川	4月17日(月) 15:00~18:00	マリアージュインベルコ
留萌	4月18日(火) 15:00~17:30	パワスポ留萌(留萌地域人材開発センター)
北見	4月19日(水) 15:00~18:00	ホテルベルクラシック北見
旭川	4月20日(木) 15:00~18:00	アートホテルズ旭川
函館	4月25日(火) 15:00~18:00	ベルクラシック函館
札幌	4月28日(金) 14:00~18:30	ロイトン札幌
名寄	5月9日(火) 15:00~17:30	グランドホテル藤花
稚内	5月10日(水) 14:30~17:30	ANAクラウンプラザホテル稚内
帯広	5月12日(金) 15:00~18:00	ホテル日航ノースランド帯広

- 札幌会場では「NPO 法人高校生進学支援の会」との共催となります。また「進学マナー講座」を開催します。
- 滝川・北見・旭川・函館会場では「職業説明・体験コーナー」を開催します(職種・内容は会場によって異なります)。
- 札幌を除く会場で「職業・職種相談コーナー」「職業興味検査コーナー」「不安解消!おシゴト選びアドバイス」を開催します。



黙ってたって はじまらない。

言葉に出したら、きっと叶う。
未来の自分に、きっと届く。

道内
10ヶ所
で開催

専門学校進学相談会

4/13(木)

●開催時間 15:00~18:00

ANAクラウンプラザホテル釧路
新館市街地3丁目 tel.0154-31-4111

リクルート キヤリア専門員による
不安解消!おシゴト選びアドバイス

スナップシューマーズによる
500円分の図書カードプレゼント!

シブキオファクトリーによる
職業相談コーナー

職業興味検査コーナー

無料バス運行!

公益社団法人 北海道私立専門学校各種学校連合会 tel. 011-242-1955

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西6丁目3番1号 札幌カーテンバス内

HSU 検索